

現場改善基本トレーニング・実践応用編

製造現場のカイゼン実践ワークショップ提案

セミナーで学んだ「フィードバックの受け止め方」と「具体的な行動化プロセス」を、
日々の業務習慣へ無理なく定着させるための2つのワークプログラム。

2つのワークショップ設計の狙い

OVERVIEW

マインドセットを「現場の即時行動」へと落とし込む。

- **ワーク①：「事実」と「解釈」の分解トレーニング**
相手からの指摘（フィードバック）に対して、感情的な反発を挟む前に客観的な「データ（事実）」のみを綺麗に抽出する思考力を養います。
- **ワーク②：抽象指摘の「具体的アクション」変換**
現場で多発する「もっと注意して確認」などの曖昧な言葉を、再現性があり現場負荷のない「持続可能な具体的ルール」に書き換えます。



WORKSHOP 01

「事実」と「解釈」の分解トレーニング

指摘から感情を引きずらず、客観的な改善データのみを取り出す実践練習

実施ステップ (45分間)

- STEP 1** 感情の吐き出し (5分)
提示された「厳しい指摘事例」を聞いたときの本音（悔しさ・反発）をまずは付箋に自由に書き出します。
- STEP 2** 「事実」と「解釈」の仕分け (15分)
「相手の指摘した具体的な行動（事実）」と、「自分が勝手に抱いた不安（解釈）」をワークシートで2列に分類。
- STEP 3** 改善ヒントの選択と行動化 (15分)
感情や余計な解釈を完全に排除し、「今の自分にすぐ活かせる有益な点」のみを1つ選択して、具体的な作業ルール案にします。

ワークシート実践イメージ

指摘事例
「作業手順が雑に見える。もっとスピード落としてよ」

✕ 自分の解釈 (不要な部分):
「自分の手際の良さを否定された。相手に嫌われているんだ」

○ 客観的な事実 (データ):
「品質規定で定められている工程Aでの確認手順を省略して作業していた」

👉 改善アクション:
「工程Aの最後に指差し確認3秒を組み込む」

WORKSHOP 02

抽象指摘の「具体的アクション」変換

「気をつける」という意識頼みを卒業し、現場キャパ内で回る仕組みを創る

ワーク2: プログラム詳細と流れ

WORK 02

曖昧な言葉を、誰でも再現可能な「ポカヨケ行動」に。

STEP 1 抽象指摘ワードの洗い出し（10分）

「もっと注意深く！」「最後までしっかり見て！」など、普段現場で交わされる曖昧な注意・指摘をリストアップ。

STEP 2 背景にある「真の目的」を掘り下げる（15分）

「なぜそう言われたか？」を考え、「次工程に不良を流さないポカヨケ」「現場の物理的安全性の確保」など真の目的を言語化。

STEP 3 持続可能なルール設計（20分）

多忙時でも絶対に破綻しないよう、普段のフローに「数秒で自然に組み込めるルール」として、チェック表などのツールへ反映。

カイゼンを持続可能にするための 3つの鍵

SUCCESS KEYS



評価と切り離れた本音の場

最初の感情吐き出しは、評価に影響しない安全な場であることが必須。反発や悔しさをそのまま認めることで、その後の冷静な内容分解が可能になります。



理想より「持続性」を優先

完璧なルールは多忙時にすぐ形骸化します。作業を妨げない「数秒、ワンアクション」で終わるルール（20点でも持続するもの）をチームで称賛します。



定期的なルールの変更と見直し

一度決めたら変えないのではなく、実際に運用して見つかったやりづらさを「調整・カスタマイズ」するプロセス自体が、本当のチーム力向上に繋がります。

ご質問・ご相談

指摘を成長の糧に変え、全員で持続可能な素晴らしい現場を創り上げましょう。

—— ご清聴ありがとうございました ——